

「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」ロジスティックサポート実習(DCOME)を開催しました (2019/11/16-17)

テーマ：災害医療救護通信エキスパート育成協議会 (DCOME)、衛生携帯電話・データ通信
 場所：東北大学災害科学国際研究所 (宮城県仙台市)

2019年11月16日(土)、17日(日)の2日間、災害科学国際研究所で「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」ロジスティックサポート実習(DCOME)が実施されました。宮城県内外の医療従事者(医師、歯科医師、看護師、薬剤師、放射線技師、事務職員)、行政職員ら22名が受講しました。

東日本大震災においては、通常通信手段の途絶・輻輳により「情報通信の孤立」が広範囲にわたり発生しました。平成28年6月の総務省「大規模災害時の非常用通信手段の在り方に関する検討会」報告書提言を受け、災害医療・救護活動従事者に各種無線機の設定方法や操作、維持管理等を習得させる災害医療救護通信エキスパート育成協議会(Disaster Medical Relief Communication Expert Council: DCOME)が組織され、体系的な座学研修・実技訓練を実施しています。今回、本プログラムとの共催で研修会が実施され、受講生は電波利用システムの適正利用・法体系、各種衛星携帯電話・衛星データ通信機器の設置、操作方法について2日間にわたって体系的に研修・訓練を受けました。修了後、受講生には「上級災害医療救護通信エキスパート認定証」が交付されました。

「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」では年間を通じ、災害保健医療に関するさまざまな講演、実習を実施しています。当研究所の佐々木宏之准教授(災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野)はプログラム運営企画委員会委員・実習コーディネーター、講師として運営に携わっています。今後は12月7日(土)に災害派遣セミナー、12月8日(日)に災害薬事実習が当研究所で予定されています。

年間の講義予定は「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」HP(<https://www.dcmd.hosp.tohoku.ac.jp/curriculum/entry/>)に掲載されており、オープン参加として履修生以外の参加も受け付けています。



座学で法体系、システムを学ぶ



衛星携帯電話(スラヤ)について実技訓練を受ける



MCA, CR,イリジウムの実技も(写真はMCA無線)



暗いなかBGAN、ワイドスター設置・通信訓練



VSAT設置・通信訓練



VSATを前に受講生と講師陣全員で